

# ひとりで咲いた 仲間で



## ひの木太鼓

和太鼓といえば、日本の祭りに欠かせない民俗芸能。臼井台青年館の庭先で「ひの木太鼓七つの守り事」を輪唱する愛らしい姿に胸キュン。お日さまの縁側で楽しいおしゃべり。「太鼓が好き。」「たたきながら、もっと上手になれるといいな。」「お手本になりたい。」「いろんな人にやってほしい。」「たくさんの人に聞いてほしい。」と太鼓への思いを話してくれました。普段着の顔が「ばち」を握るとキリリと引き締まり、小さな体が舞い、二本の「ばち」魔法の手に。



施設や地域行事における和太鼓演奏(臼井小の児童~大人)  
活動日: 毎週土曜日午後4時~6時(夏季)2時~4時(冬季)

創作太鼓にふさわしい打法、演出、表現法に圧倒。のり・たまも初体験。「ばち」の打ち方や左手、右手の使い方。「ドン!」と打った瞬間の気持ちよさを皆さんにも是非お勧めします。笑顔の指導者田仲知代さんは、カッコいいですね。



取材: のり・たま(森・岡本)



# 咲いた ざざっと咲いた



## 高齢者いきいきクラブ「コケッコ村」

7月27日朝8時、コケッコ村に到着! とりたてのキュウリをみんなでほおぼりながら、説明を聞く。「コケッコ村の畑でできた作物は、虫に1/3、人間が2/3いただいています。農薬は一切使っていません。雑草や収穫後の茎やつるを肥料として土に戻しています。」このお話をふまえ、いざ畑へ。宝探しのように畑の土を掘ると、形のいい男爵イモがコロコロ…。キュウリをもぎに行った3人と合流し、えいこちゃんの家の敷地へ。とびきり冷たい井戸水を体感した後、



“ちゃふくばあさん”の木陰で一休みしながら、みなさんのお話を聞く。「種をまいて、芽が出てくるところがとてもかわいい」と笑顔のいちごちゃん。「毎年、うまく育つかドキドキ」とまこちゃん。「やっぱり収穫する時が一番楽しい」とえいこちゃん。私たちの収穫を見守ってくれていたのりくん、畑の持ち主のはるばあちゃん、“たまご。”さんをはじめ、作物や人への愛にあふれた素敵なグループ。畑仕事の楽しさ、自然の恵みのありがたさを知ることができ、子ども達も大満足の体験取材でした。

取材: 田仲、野口、小学生9人



畑クラブ…野菜づくりと食育学びあい。手芸などの手作り品作成  
活動日: 月・木曜日



## あすなろ22



~訪問先での皆様の笑顔が原動力に~

高齢者介護施設「さくら苑」でのコーラス活動に同行取材しました。あすなろ22の皆さんは、市民カレッジ22期生、街づくり班の方々が集まり2014年6月から訪問活動を始めました。他に「ちとせ小町」や「真栄の里」等へ月1回のペースで訪問しています。その時に参加できるメンバーが利用者の皆さんとコーラスを通して交流しているとの事。今回は8名のメンバーが参加し、ナツメロ、童謡、唱歌や、ちょっと手遊び的な歌を皆さんで、入所者の方もマラカスやタンバリンを持って



コーラスによる施設訪問  
活動日: 毎月第1水曜日、第3月曜日、土曜日

一緒に歌い体を動かしたり、とても楽しそうに交流していました。参加されている皆さんの中には踊りだす方もいて和やかな雰囲気でした。1時間11曲のプログラムで、あすなろの皆さんがやさしく接していました。

利用者の皆さんの笑顔が何よりのお土産だとのことです。

取材: 峰村



## 個人ボランティア 峰村愛子さん



千成地区を拠点にボランティア活動を展開されている峰村愛子さん。その活動の一つが、児童への絵本の読み聞かせをする「なかよし文庫」です。昭和50年7月に創立され、今年で満40年を迎えました。毎週、水、木、土の3回行われてきましたが、子どもの減少に伴い平成27年から土曜日のみ第1週と第3週に行っています。

8月30日(日)に千成にある「青年館」を訪れ、「なかよし文庫」による人形劇「三枚のおふだ」を見学しました。出演する児童が今年は1人だけということもあり峰村さん自らも出演され、ずいぶん練習されたんだなあと思わせるその熱演に参加者全員が暖かい拍手を送りました。

峰村さんは「文庫が私を育ててくれました。子ども達の笑顔を見ると元気をもらえるのでこの40年間続けてこれたのです。」と語ってくれました。この「なかよし文庫」のほか、おもちゃ図書館の「ボランティアグループありんこ」、施設でのさまざまなお手伝いをする「あしたの会」への参加、さらにジャズ音楽会の開催まで手を広げておられるというから驚きです。また、フルタイムで週4日も働いているから、まさにスーパーウーマンですね。これからもお元気でがんばってください。



地域での活動や、施設への訪問 活動日: 第2水曜日 他

取材: 細田、平田